

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 46 号

平成30年11月 1 日



高岡銅器の恩人 大塚秀之丞

国方 林三 作

(明治34年 鑄銅科卒・元教員)

明治初期の高岡の銅像は小さな木像の原型を手に、鑄物職人の勘によって拡大して造られていました。よって、原型に忠実な銅像には出来上がりません。この時代の銅像の原型師の名が後世に残されておらず、ただ鑄物職人の名のみが伝わっているのは、原型がそれほど重視されず、鑄物職人の鑄造技術に頼るところが大きかったからです。

しかし、明治27年(1894)に富山県工芸学校が設立されると、近代的な彫刻技法で原型をつくり、込め型鑄造によって原型そのままの銅像を作る技術が高岡に導入されました。大塚秀之丞は、高岡に本格的な彫刻原型の技法をもたらした最初の人でした。

明治3年(1870)に山口県に生まれました。石川県の九谷焼で陶器原型の指導にあたっていましたが、明治27年の富山県工芸学校開校とともに金工科の教師として高岡に赴任し、以来大正6年(1917)退職までの24年の間に多くの後進を育てました。

代表作は氷見朝日山公園の神武天皇像。

同窓生ギャラリー

第6回工芸建築科同窓会作品展 2018

個人住宅や公共施設など設計や施工に携わった建築作品約30点や図面を交えたパネル、模型で紹介した。また、在校生の建築デザインや模型、各種のコンペの入選作品なども披露した。

工芸作品展2018を終えて

橘 泰一（平成7年建築科卒）

工芸作品展が無事に終え、会期中と準備にお世話をしてくださった関係者のみなさん、出展者と工芸在校生おつかれさまでした。

作品展を通じて先輩の仕事や活躍を拜見できること。在校生が授業やコンペなどでどんな活動をしているかを知ることができること。先輩のこと。在校生のこと。お互いの作品を見られることは工芸高校建築科のつながりが再確認できる良い機会だと改めて感じています。特にこれから大学、社会へ進む在校生にとって、先輩の仕事ぶりがこれからの進路に対する勇氣と希望とヒントになればいいかと願っています。



工芸建築科同窓会作品展2018

丸山 柚依

私の心に残った作品は、みずき建築設計事務所
の幼保連携型砺波市立南部認定こども園です。私は
インターンシップで認定こども園の工事現場を
見学しました。認定こども園は他の公共建築物と
比べ、階段や廊下、採光など主に園児のため、幅
や広さ内装に工夫が必要だと知りました。この園
は、学年の教室を組むことに赤や黄など見た目でわ
かりやすく色分けをしたり、ステージ側に大きさ
の違う円形の窓を設けることで自然光が入る仕組
みになった遊戯室など園内で過ごしやすい工夫が
施されています。また、屋根から地面へクリアパイ
プを設け雨水が流れていく様子が観察出来るよう
にしたり、天井を高くして自然光が多く取り入
れたり、壁一面が絵本の棚になっているなど園内
の生活から学ぶ工夫がしてあります。園児は日中
の大半を園内で過ごすので、使いやすさだけでなく
良い刺激を与えることができる空間が必要だと
思いました。

合同作品展作品の中でこども園や高齢者向け住
宅が多いと感じました。建築物は住む人、使う人
に合う空間を提供する役割を持っていると思いま
す。

コンペディション自由設計では利用する人の目線になって、よりよい空間を作り上げ、また長く残り次の世代に生かせるように考えることも大切だと思いました。

「地域の歴史と文化を踏まえた
伝統的建築物の保存と再生」講座に参加して

山崎 陽祐

私は、工芸建築科同窓会作品展で大野設計事務所の大野博和氏による講演を拝聴しました。「地域の歴史と文化を踏まえた伝統的建築物の保存と再生」をテーマに、大野氏が実際に修復を手掛けた有形文化財やその他の建築物を例に、保存と再生についての考えを聴きました。修復を手掛けた建築物はどれも歴史的価値のある伝統建築であり、それらがさらに美しく、機能性のあるものに修復されていく素晴らしさを感じました。特に印象に残ったものは、高岡市山町筋の重要伝統的建築物群の保存です。伝統的建築物が建ち並ぶ事で、山町筋の町が全体として趣のある雰囲気をかもしだし、日常に溶け込む心地良い空間を作り出す効果があると感じました。

この講演を通

し、私も高岡工芸高校の同窓生として、いずれは地域がもつ魅力をより引き出すことができる建築士を目指したいと強く感じました。





第121回

第11回夢散歩展

今回で11回目、洋画や写真、陶芸など22点展示された。また会期中に「夢と音を語る集い」の演奏会も披露された。

ピーナスの思い出出……………夢散歩展会員 磯部 敏彦

もう何年前の事だったろうか……………。僕が高校を出た年だったから、かれこれ五十年も前の暑い日であった。「ヒヤーこれは何だ。この人出は、この行列は……………」八股のオロチがくねったように列がうねっている。

ある朝、「ミロのピーナス 海を渡って東洋初公開」の紙面を目にし、居ても立ってもおれず夜行列車に乗り上野の西洋美術館に向かって歩いていったときのことだ。蛇頭はどこなのか全く見えないが皆美術館に吸い込まれていく。長い待ち時間、やっとの事で館内に入る。「よし、しっかりと鑑賞するぞ」の意気込みもはかなく消える。館内は後からの人波に押されてただ前へ動くだけ。ピーナスを横目で見えて通り過ぎるだけだったが、「美しい、実に美しかった」その時の感動は今も残っている。また、そのとき感動を求めて製作活動をしている。

6月3日(日)～6月24日(日)

第120回

第17回デザイン科卒業生展

昭和42年デザイン科卒業生が絵画、陶芸、イラスト、染色、綴織、写真、手書友禅など87点展示した。

代表 堀江 和子(昭和43デザイン科卒)

今回池上栄一先生のお勧めにより、この青井記念館美術館でクラス展を開催できましたことは何より幸せなこと心より感謝申し上げます。卒業して半世紀、最初48名の卒業生でしたがその内の6名が旅立って往きました。通ってきた道は十人十色、集まった作品は和洋多種多彩バラエティーに富んだ作品展となりました。

全員が出品できた訳ではありませんが、準備の日に当たっては近隣の級友達が応援に駆けつけ、差し入れ等の心遣いをしてくれ皆協力し作業が進みました。

半世紀経っても昔と変わらず一緒に行動してくれた級友達の有り難さを思い、亡くなった級友達一人一人の思いも共に行えた48名のクラス会展ではなかったかなと感じた次第です。



6月3日(日)～6月24日(日)

第122回

加納萌子展「Respiration」

富山大学大学院芸術文化科学研究科1年、初の個展を開いた。大学や大学院で描いた油絵、アクリル画など人物像を中心に14点展示した。

加納 萌子(平成26年 デザイン・絵画科卒)

今回初めて個展を企画して、たくさんの人との繋がりが生まれたことに驚きました。これまで大学または大学院内で評価されることが多かったのですが、この個展では私の作品を見て純粋に「好きです」「感動しました」といった感想を頂けて嬉しかったです。

個展を通して家族や友人に自分の作品を知ってもらうことが出来ましたが、会ったこともなかった人に私の作品を知ってもらうことが出来ましたが、次はもっとあみたい、こうしたいという気持ちになり、今回思い切って個展をして良かったと思います。



8月8日(水)～8月26日(日)

第123回

フェローアート展

2002年から絵画図案絵画科とデザイン科の卒業生で県外で創作活動を行っている作家の作品展、2002年から4年に1回開いている。今回で5回目、7人の洋画、日本画、陶芸などを出品された。また元教職員の池上栄一先生の作品も展示された。

代表 八田 敏郎(昭和36図案絵画科卒)



「同窓の仲間が広く気楽に集まれる美術展を、4年に一度のワールドカップに合わせて開催する」と申し合わせ、2002年を第1回から早16年…第5回フェローアート展を開催することになりました。フェローアート展は、ここ高岡工芸高校の図案絵画科・デザイン科の卒業生で、関東・関西・九州在住の有志が現役をリタイヤした後も趣味を高め、また各美術団体に所属し、プロの世界で活躍する元気と作品を通して在校生や同窓生、地域社会との交流を深めることを目的に計画された展覧会です。

賛助出品して頂いている池上先生は今もお元気で富山県のみならず日本芸術界を代表する作家として活躍されています。今回の出品者の恩師であり精神的支柱でもあります。この会発足者の一人、恩師の紺野先生は残念ながら昨年逝去されました。ごめいふくをお祈りいたします。

「あなた 達者やっつけ！元気でやっつけろ！」を合い言葉に「交流の輪を広げ、絆を深める場」なることを期待しています。在校生、活躍されている同窓生へのメッセージになることが願いです。

9月1日(土)～9月23日(日)

収蔵作品展 I期

活躍する卒業生たち

～人間国宝・日本芸術院賞～

8月8日(水)～8月26日(日)

重要無形文化財保持者(人間国宝)故金森栄一(映井智)、日本芸術院賞受賞した佐々木長次郎(大樹)山崎寛太郎、郷倉与作(千軒)、大角勲、現在、日展副理事長の藤森兼明の作品(金工、漆工、彫刻、洋画、日本画)を17点展示した。



尚美展関連作品展

10月6日(土)～10月28日(日)

卒業生や在校生、教職員、PTAの作品を展示した。絵画や工芸、デザイン、彫刻、書など幅広い分野の約120点が並び、卒業生では川原和夫氏の「工芸、富貴まねき」や般若保氏の「吹分花器」須賀真一氏の蛸型鑄造「草紋花入」、第43回県青少年美術展の入賞・入選した在校生の作品も展示した。



お知らせ

第43回 富山県青少年美術展 入賞者一覧

- 工芸部門
 - 大賞 織田峻太郎(36 H) 銅賞 澤川 未央(26 H)
 - 写真部門
 - 大賞 浦上 弥生(37 H) 金賞 斉藤 彩華(37 H)
 - 銀賞 吉田 爽香(37 H) 銀賞 茅原 天音(36 H)
 - 銀賞 浦島 理紗(37 H) 佳作 上村 碧空(31 H)
 - 彫刻部門
 - 金賞 宮野 響(26 H) 銀賞 松原 凜(26 H)
 - デザイン部門
 - 金賞 湊 明日香(37 H) 佳作 市本 夏海(17 H)
 - 書部門
 - 金賞 又場 唯斗(35 H) 佳作 山田 舞(37 H)
 - 絵画部門
 - 銅賞 大澤 弥生(37 H) 佳作 山田 舞(37 H)

平成30年度改組新第5回日展 入選 出品者

(本校関係者)

- 〈洋画〉
 - 審査員・副理事長 藤森 兼明 S 29年 図案絵画科卒
 - 特選 谷口 信夫 S 42年 工芸科卒
 - 初入選 宮長 由紀 H 13年 化学工業科
 - 再入選 正和 朗実 H 20年 工芸科卒
 - 織田 定男 S 63年 工芸科卒
 - 池上 猛 S 48年 デザイン科卒
 - 齊藤 晴之 旧教職員
 - 葛井 保秀 教職員
 - 川原 和夫 S 31年 木材工芸科卒
 - 尾長 保 旧教職員
- 会 員
 - 小西 徳泉 S 60年 工芸科卒
 - 川田 良樹 S 46年 工芸科卒
 - 大丸 敏 S 43年 工芸科卒
 - 田畑 功 S 49年 デザイン科卒
- 〈彫刻〉
 - 准会員
 - 小西 徳泉 S 60年 工芸科卒
 - 川田 良樹 S 46年 工芸科卒
 - 大丸 敏 S 43年 工芸科卒
 - 田畑 功 S 49年 デザイン科卒
 - 会 員
 - 小西 徳泉 S 60年 工芸科卒
 - 川田 良樹 S 46年 工芸科卒
 - 大丸 敏 S 43年 工芸科卒
 - 田畑 功 S 49年 デザイン科卒
 - 審査・会員
 - 小西 徳泉 S 60年 工芸科卒
 - 川田 良樹 S 46年 工芸科卒
 - 大丸 敏 S 43年 工芸科卒
 - 田畑 功 S 49年 デザイン科卒

文化部合同展

7月13日(金)～7月20日(日)

式に先立ち、吹奏楽部のミニコンサートがあり、美術や陶芸、建築工学部など11の文化部作品210点展示された。

「文化部合同展に出品して」

デザイン・絵画科 一年 西森 和奏

私は、「文化部合同展」に、印象的な夕日と雲が水面に映っている写真を出品しました。テーマは「黄昏」で、学校帰りに撮影したものです。この写真を撮る際、特に気をつけたことは構図です。水面の映り込みを目立たせるために、縦位置で、水平を意識して撮りました。また、そうすることで、水色から橙色に美しく変化する空の様子や、不思議と動きを感じさせる雲の形を、写真を通して見る人に感じてもらうようにしました。

友達や先輩方の作品を見て、勉強になることがたくさんありました。このモチーフを撮るときはこうすべき、という固定概念にとらわれず、自分の意図する作品になるように構図や絞りを工夫することで、同じ行事やモチーフでも、おもしろい作品になると思っています。

今回、作品を美術館で展示していただき、中美展とは違った喜びを感じました。作品を見た人に何かを伝えるような写真を撮ることができるよう、これからも努力を重ねていきたいと思っています。



編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中山一-1-10
TEL (076) 221-1630 (内線611)
FAX (076) 221-1631